

25枚の短冊

「石狩随想」(P.3)で、市長も書いていますが、本町の中島さんの蔵から「秩父事件」の会計長井上伝蔵自筆の短冊が発見されました。石狩には20年近く潜伏していたながら、これまで確認された自筆資料は皆無でしたから、大発見です。わたしも、早速、中島さんをお願いして見せていただきました。

伝蔵の短冊は、桐の板に挟まれた束の中にありました。ところが、この束の中には、『尚古集』に掲載されたほかの社員(会員)の短冊も残されていました。

『尚古集』は、石狩町にあった俳句結社「尚古社」が、亡くなった社員の追悼のため、明治35年に刊行した句集です。当時尚古

社は、北海道を代表する俳句結社でした。尚古集を刊行するにあたっては、全国に投句を呼び掛け、その結果、北海道から沖縄までの1538句が収録されました。

今回発見された中には、伝蔵のほか、樺太アイヌ救済組合長で、樺太から強制移住させられたアイヌ民族の保護にあたった上野正や、石狩随一の商店中島呉服店を営み、尚古社社長だった鎌田幹六、生振小学校の初代校長で、生振の俳句結社「弥生社」の中心人物だった中島源五郎など、当時の名士、文化人が含まれています。

尚古社の短冊は、伝蔵のものも含め25枚ありました。書かれ

ている句はほとんどが尚古集に収録されたものです。短冊の紙の色や模様はさまざまで、筆跡も違ってきます。おそらく、伝蔵を含め、句を寄せた社員一人一人が思いを込めて句をしたためたものと思われます。

(工藤義衛)

頼母しき 友や揃ふて 霊祭 (たのもしき とよやそろつて たままつり)

西史

「頼母しき 友や揃ふて 霊祭」(たのもしき とよやそろつて たままつり)

西史(上野正)

進悼

とうか
桃下
(中島源五郎)

上野

ちりょう
池菱
(鎌田幹六)

市制10周年記念特別展示

「104年ぶりに発見された尚古集自筆短冊展」

発見された伝蔵の短冊のほか、句集『尚古集』(明治35年)に収録された社員たちの短冊も併せて展示します。

期間 7月1日(土)～30日(日)

会場 市民図書館

■文化財課・いしかり砂丘の風資料館 ☎62-3711

✉i-museum@bz01.plala.or.jp

■石狩浜海浜植物保護センター ☎60-6107

✉ihama@city.ishikari.hokkaido.jp